

本単元で育む主な情報活用能力

A-STEP 4, D-STEP 4

F-STEP 4, G-STEP 4

該当番号の詳細内容は

「大阪府情報活用能力

ステップシート」から確認できます。



単元でつきたい力（ステップシートの項目）

（教科等でつきたい力）

- ・日本と世界の郷土料理について比較し、考察したことをもとに、郷土料理を継承していくために自分ができることを考え、表現する。  
（学校図書館等の活用でつきたい力）
- ・資料から読み取ったことをもとに、なぜその国でその主食やおかずが食べられているのかについて考え、まとめる。
- ・スライドの効果や内容を吟味しながら、日本と世界の郷土料理の違いや食文化についてまとめ、伝える。

単元における学習の展開（全5時間）（学校図書館等を活用した時間に☆印）

第1次 (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食文化について身近な年間行事の中から、昔から食べられているものを確認する。</li> <li>・食文化とは「その土地で受け継がれている食べ物や食べ方」であることを確認し、日本では各都道府県で産地消から郷土料理につながった料理があることを知る。</li> <li>・各都道府県の郷土料理を写真で見、知っているクイズを行い、各都道府県の郷土料理を知る。</li> <li>・郷土料理への関心が薄れていることに触れ、受け継ぐ取り組みについて知る。</li> </ul>
第2次 (4時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・班で一冊の本をブラウジングしながら、世界の国から一つを選び、情報収集する。(☆)</li> <li>・班で分担を決め、その国の主食とおかず、それらが食べられるようになった理由、日本との違い（食べられているもの、食べられるようになった理由）と、先人たちが残してきた日本の郷土料理を受け継ぐことについて、スライドにまとめる。(☆)（本時）</li> <li>・スライドを活用して発表する。質疑応答を通して内容理解を深める。</li> <li>・発表を振り返る。（郷土料理を受け継ぐことについて自分ができること、学習を通して理解した郷土料理について相手に伝えるように説明する）</li> </ul>

本時のねらい

- ・日本と世界の郷土料理について比較し、考察したことをもとに、郷土料理を継承していくために自分ができることを考え、表現する。

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	学校図書館活用のポイント 及び指導上の留意点
導入 (5分)	<p>1. 前時のふりかえりと本時のゴール（班でスライド完成）を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前回決定した国の調べる内容と提出物について確認する。</li> <li>・発表の後に質疑応答を行うため、答えられるように調べる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時で使った本に加えて、他の本やタブレットを活用して情報収集する内容を確認する。</li> </ul>
展開 (40分)	<p>2. 班で分担して決めた国の食文化について調べ、スライドにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・決めた国の主食について …どんなものを食べているのか・その主食を食べるようになった理由</li> <li>・決めた国のおかずについて …味付け、調理方法、そのおかずが食べられるようになった理由</li> <li>・日本とその国の違いについて …食べられているものと食べられるようになった理由の比較</li> <li>・郷土料理を受け継ぐためにできることについて考えを深める。（まとめる）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本とタブレットを併用し、本当にその情報が確かかどうか、複数の情報源から確認する。</li> </ul>
まとめ (5分)	<p>3. 次時の発表について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次回の発表に向けて、質問に答えられるようにしておくことを再確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの作成したスライドを振り返り、わかりにくいところがないか、確認する。</li> </ul>

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・様々な国の主要な料理が載っている本を用意し、班で1冊の本を見て話をしながら生徒の興味がある国を決めた。机間巡視で、「日本と似ている国を調べるのも面白いね」「主食がない国の深掘りをするのも良さそう」「自分の好きな国でも良いよ」など、各班の様子に合わせてヒントになる声かけを心がけた。
- ・日本とその国の違いについて比較し、継承していくために大切なことを見いだすことに注力した。
- ・スライドを作る際、参考になるように全体に紹介し、「こういう工夫も良いよね」と共有することで、どの班もクオリティの高い発表になった。
- ・生徒が作成した資料は、次年度の2年生等が活用できるように、調理室等に掲示したり、保管したりする。



本やインターネットから複数の情報を参照し、内容をまとめ、考えを深める。